

# 上越市立東本町小学校 同和教育研修会 のご案内 (二次)



📅 期 日 平成27年 11月20日 (金)

📍 会 場 上越市立 東本町小学校

あなたがいて  
わたしがいる

📅 日 程

資料代1,500円研修会当日、受付でいただきます。

12:40	13:10	13:30	13:45	14:30	14:45	16:15
受付	全体会 ＜体育館＞	移動	同和学習 授業公開 ＜各教室＞	移動	歌と語りの集い ＜体育館＞	

## 差別を自分の問題としてとらえ、自分も人も大切にすることも

### 一実践行動力を高める指導方法の工夫一

#### <授業づくりの視点>

- 視点1 身の回りで起きている差別問題を自分の問題としてとらえ、差別を見抜く眼、差別を許さない態度をはぐくむ手立ての工夫
- 視点2 社会で発生している人権課題への認識を深め、差別解消に向けての行動力を高める手立ての工夫
- 視点3 部落差別への理解を深め、自分の問題としての認識をもち、人としての生き方やあり方を考えていく学習過程の工夫

## 📅 歌と語りの集い

同和問題をはじめとした様々な人権問題について、歌と語りを通して、現実を見つめ、考えていきます。

<講師> 「歩° 歩°」のみなさん (滋賀県草津市在住のアマチュアグループ)



#### <プロフィール>

「歌を聴いていただくことで、多くの人たちに命の大切さ命の尊さ、差別の醜さ、不合理さに気付いてもらおう。そして一人でも多くの差別をなくす仲間を増やしていこう!」という思いで結成された人権啓発バンド。9月には結成10周年記念コンサートを開催。

主催：上越市立東本町小学校・東本町小学校PTA  
共催：上越市・上越市教育委員会  
後援：上越市学校教育研究会



## 公開授業一覧【全学級の同和学習を公開します】



学 級	授業者	取り扱う資料名と目指す子どもの姿
なかよし学級	加藤 京子 山下奈美恵 山崎 栄子 神村真由美	「友達とかかわろう」―「なかよしランド」での活動を通して― 遊び場づくりを通して、自分がしたい遊びを決めて遊びをつかったり、自分のつくった遊びを認めてもらったりすることで自信をもち、進んで友達や教職員とかかわろうとする。
1年1組	横尾 裕美	「ぼくも入れて」 だれからも手をつないでもらえない友達の気持ちに共感し、周りの人の言動の不当性を考えることを通して、自己中心的な言動が差別につながることに気付き、だれとでも仲良く生活しようとする。
1年2組	松本 紀子	「さるとかに」 つらいおもいをし続ける人の気持ちを考え、共感することを通して、自分勝手な言動が相手を傷つけていることに気付き、いじめを見過ごさないようにする。
1年3組	五十嵐理恵	「割れた下じき」 決め付けをされた友達の気持ちを考えることを通して、一方的な見方や考え方で相手を判断することは人を傷つける行為であることに気付き、決め付けた言動をしないようにする。
2年1組	林 誠仁	「はじめさんとともに」 友達の個性を受け止めている自分や友達の言動に共感することを通して、友達の個性をありのままに受け止め、認める大切さに気付き、共に仲良く生活しようとする。
2年2組	齊藤亜紀子	「てるちゃんのたからもの」 「容貌障がい」で差別を受けた人のつらい気持ちを考えることを通して、外見で人を判断せず、偏見をもたずに友達と進んでかかわっていきこうとする。
2年3組	早津 晴美	「学校の帰り道」 いじめられる友達の気持ちや傍観していた友達の行動について考えることを通して、傍観することはいじめと同じであることに気付き、いじめを見過ごさずに自ら勇気をもって行動しようとする。
3年1組	古海 恭子	「わたしの足は車いす」 障がいによって偏見をもたれる人の心の痛みにおもいをはせること通して、相手のおもいや願いを知って行動することの大切さに気付き、自ら実践していこうとする。
3年2組	飛田 容子	「どうしたらいいんだろう」 いじめられる友達の気持ちに共感することを通して、いじめられる人のつらい気持ちを考えて行動することの大切さに気付き、解決に向けて自ら行動しようとする。
4年1組	宮崎 容子	「橋」 流言飛語に惑わされることなく、互いに交流を深めていく人々の姿を通して、真実を知ることの大切さに気付き、進んでいろいろな人とかかわっていきこうとする。
4年2組	土田 翔英	「しんじさんの日記」 いじめられる子どものつらい状況に共感し、自分を重ね合わせて考えることを通して、今までの自分を振り返り、いじめをなくすために自分自身ができることを考え、勇気をもって行動しようとする。
5年1組	内田 昌樹	「と畜の仕事」 と場で働いている人々のおもいや願いを考えることを通して、と畜の仕事をしている人々に対する偏見や差別の不当性に憤り、偏見や差別をなくすために自分ができることを考え、行動しようとする。
5年2組	水木 里美	「心と体の痛み」 新潟水俣病被害者が受けている偏見や差別に憤り、新潟水俣病被害者のおもいに共感することを通して、偏見や差別をなくすために自分ができることを考え、実践しようとする。
6年1組	田中枝利子	「五万日の日延べ」 太政官布告が發布されても被差別部落の人々への差別が続いたことについて考えることを通して、部落差別は周りがつくりだしていることに気付き、部落差別のない社会をつくるために自分ができることを考えて行動しようとする。
6年2組	齋藤 晃	「部落差別と闘い続ける」 部落差別によって奪われた文字を取り戻しながら、仲間と共に闘い続けている人の姿を見つめることを通して、これまでの自分の考え方やあり方を振り返り、部落差別解消に向けて行動しようとする。